

祝　辞

青森市教育委員会
教育長 工 藤 裕 司

本日ここに、「第 70 回東北造形教育研究大会青森大会兼 2026 年度青森県造形教育研究大会東青大会」が、東北各県ならびに県内各地から多数の皆様をお迎えし、青森市において盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。また、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様の、日頃からの造形教育の充実に向けた並々ならぬご情熱とご献身に対し、深く感謝と敬意を申し上げます。

さて、現在、次期学習指導要領の改訂に向けた議論が進められております。そこでは、多様な子どもたちを包摂し、「主体的・対話的で深い学び」のさらなる充実を図ることで、自らの人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材の育成が重要な焦点となっております。このような中、本大会のテーマである「創る喜び 伝える喜び～感性豊かに未来へつながる～」は、極めて大きな意義を持つものです。子どもたちが素材と対話し、試行錯誤しながら自らの想いを形にする「創る喜び」や、その表現を他者と分かち合う「伝える喜び」は、豊かな感性と創造的思考を育む根幹であり、一人一人の可能性を未来へとつなげる尊い学びの原点であります。

本市は、世界のムナカタと称される棟方志功画伯をはじめ、多くの巨匠たちを育んできた芸術文化の息吹あふれる街です。昨年開催された棟方志功没後 50 年記念展「青森の子世界のムナカタ」では、その生命力溢れる作品群が改めて多くの人々に深い感動を呼び起こしました。さらに、ライオンズクラブ青森地区の皆様の主催により、子どもたちの「板と魂の伝承 棟方志功裏彩色版画展」も開催されました。刷り紙の裏から色を滲ませる「裏彩色（うらざいしき）」という棟方独特の技法に焦点を当てたこの展示は、作品のもつ魂と情熱を今に伝える素晴らしい試みでありました。このように、地域社会が一体となって独自の表現や文化を次世代へ継承しようとする熱意が、本大会を機に、東北の各地区へも広く波及していくことを切に願っております。

日々の授業実践や研究に真摯に取り組まれている先生方におかれましては、本大会での公開授業や実践発表を通じ、造形教育のさらなる発展につながる実り多き成果を得られますことを心より期待しております。会場となる「ねぶたの家 ワ・ラッセ」はもとより、本市の豊かな文化や風土にも触れていただき、皆様にとって充実した研鑽の場となりますれば幸いです。

結びに、本大会のご成功と、東北造形教育連盟並びに青森県造形教育連盟の今後ますますのご発展、そして本日ご参会の皆様方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、祝辞といたします。